

企業名： キッセイ薬品工業

レポート名： 「統合報告書 2022」

### 1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

p.8-9 を見ると、マテリアリティへの取り組みを通じた SDGs への貢献が掲げられている。会社が挙げている重要課題として、「社会的に有用な製品の開発、提供」「高品質な製品の安定供給」「医療患者、患者さんとのコミュニケーション」「ガバナンスの強化、充実」「働きがいのある職場づくり」「環境への取り組み」「良き企業市民としての社会貢献」の7つが挙げられており、対応する SDGs として主に「3 すべての人に健康と福祉を」「8 働きがいも経済成長も」「13 気候変動に具体的な対策を」「17 パートナリシップで目標を達成しよう」などが挙げられている。これらのことから、環境や労働者に考慮した、サステナビリティな経営、また、それらを意識しつつも製薬会社の中心である1人でも苦しむ人を救うための製薬・販売活動をおこない高品質な薬品を適切な情報と共に安定して供給することを目標としていることがわかる。

### 2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

キッセイ薬品工業（以下キッセイ）の強みとして、報告書内にメディシナルケミストリーが強みだと書かれている。Medicinal Chemistry とは医薬品科学のことであり、そのなかでも独自に発展を遂げてきた低分子創薬を基盤としている。現在販売されている薬品や、現在開発中の薬品も自社研究所で開発された宗薬品であることから、メディカルケミストの強みが理解できる。また、アレルギー性疾患治療薬や排尿障害改善薬、2型糖尿病治療薬など比較的身近な病気の治療薬から、希少疫病や指定難病などの症例が少ない病気への治療薬も開発しており、この点競争優位性があるといえる。また、国内では自社事業として、海外ではアウトライセンス化し、海外での収益の増加を図っている。これは、国内製薬業の市場の成長が見込めない中、知的財産使用料として収益を上げることができるため、他社と比べ安定しているといえる。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

上記にも示したように、海外での収益は知的財産権の使用によるもので、より新しく、より安く、より効き目のある代替薬品が現れない限り安心であると考えられる。また、持続的成長のため、2020年4月から中期5か年経営計画「PEGASUS」を開始させた（p.11）。基本方針として、「国内売り上げの拡大」「海外収益基盤の強化」「開発パイプラインの拡充」「経営環境の変化に対応する経営基盤の強化」の4つを挙げており、泌尿器科、腎透析領域から希少疾病領域までカバーし品質保証体制を維持しつつ売上拡充を図ったり、子宮筋腫の治療薬であるリンザゴリスクを新たにグローバル商品として確立することで、海外収益基盤

を強化しようとしている。また、中核である創薬事業については、p.18 から、オープンイノベーションを含むあらゆる手段を駆使して、先行技術にいち早く着目し、発展させる戦略をとっている。研究本部ではインフォマティクス技術やAI創薬など、最先端をいく研究体制、クライオ電子顕微鏡による構造解析、新たな創薬プラットフォームの構築など、安定した収益を図りつつもベンチャースピリッツな研究体制は、新たな市場開拓の可能性などを鑑みて競争優位性に持続性があると考えられるだろう。

#### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

p.42 よりキッセイは「1. 会社の社会的使命を認識し、会社の発展に寄与・貢献する優れた創造力と強い責任感および実行力ある自立型キッセイ人を育成する。」 「2. 経営と技術の革新に即応した会社業務の遂行に必要な知識、能力の向上を図り、経営目的の能率的達成を推進し得る有能な企業人を育成する。」 「3. 広い視野を持ち、豊かな教養と円満な人格を備え、良好な人間関係を築き得る誠実でかつ人間性豊かな社会人を育成する。」以上の3つの人材育成ビジョンを掲げており、これらのために、階層別研修や、能力・キャリア開発面接制度、リーダー育成プログラム、通信教育などを行っている。また、2022年4月から新人事制度を導入し、年齢や勤続年数にかかわらず早期に有能な人材を発掘すると書かれており、これらの競争制度や教育から、自身の人的資本の価値向上を達成する場は多く存在し、したがってその可能性も高いと考えられる。

#### 5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

ところどころ難しい言葉や専門用語が多く、ステークホルダーにある程度の教養が求められるように感じた。市場が小さい希少疾病などに残留する会社の良心的な面をもう少しアピールしてもよいのではないかと考えた。